



町外高校への通学費助成を

町長 下宿費を含め検討したい

斉藤 好信 議員

子育て支援拡充の署名

質問

先般「高校生の通学費助成に関する要望並びに高校生までの医療費無料化に関する要望」町民自筆の署名が町長に提出された。300余名の町民の声というのは非常に重たいものであり、親の声でもある。子育て世代、中でも高校生を持つ家庭の経済的負担軽減は、少子化対策の重要な施策であると考えます。

私は、今任期の中で幾度も施策の実現を訴えてきた。改めて町長の見解を伺いたい。

町長

一点目の「町外高校へ通学する高校生の通学費助成」については、現在、町としては地元で高等学校教育を受けられる環境の維持・発展に向け、下川商業高校の生徒確保のために通学費支援等を行っている。

上川北部町村の町外への

通学費等の助成については、地元には高校がない和寒町・中川町において、通学費及び下宿費に対して一部助成をしている。また、地元には高校があっても、公共交通機関が不便な幌加内町においては、帰省費及び下宿費に対して一部助成を行っている状況である。

通学の助成については、下宿費も含め協議の場を設け、検討していきたい。

二点目の「高校生までの医療費無料化」については、全道的に見ても、高校生までの無料化が拡大しつつあることから、本町の子育ての支援策の一つとして検討を重ねているが、本町の子育て支援については、様々な取り組みをしており、また、国や道による医療制度もあることから、皆さまに活用できる医療制度の周知を図るとともに、更に充実した施策を総合的に検証していきたい。

再質問

奨学金制度については、手続きの簡素化、窓口の一本化をし、周知することが必要ではないか。

教育長

道の奨学給付金については、償還のいらぬ給付型のものである。また、梅津奨学金についても給付型で返還の必要のない制度である。それぞれ給付には条件がある。

教育委員会にも相談窓口を設置し、制度の周知を図っていきたい。

思いやりの心を育む教育

質問

生き抜く力を幼少期より身に付けることは、単に知識の教育、学力の向上だけではなく豊かな心の教育も重要なことと思う。

近年、自分だけ良ければよいという風潮が目立つ今の時代に、他者を思いやる心を育む教育が大切であると考えます。特に多様な人々と交わる、身近な地域住民とのふれあい、支えあいの場は、他者を思いやる心を育む教育の現場である。

その人権教育、人間教育の充実を進めるべきと思うが見解を伺いたい。



町長

言葉で説明しただけでは身につくものではなく、児童生徒一人ひとりが様々な経験を通して実感を得ながら、自分の大切さと共に、他の人の大切さも認め、理解していくものだと考えている。

教育長

学校教育の現場、地域社会、家庭それぞれの役割がある。コミュニティスクール、学校運営協議会等でも十分に議論しながら、適切な子供の教育に結び付けていきたいと考えています。